

SCHOOL DATA

〒299-0115 市原市不入斗753
 TEL 0436-66-0026 FAX 0436-66-7097
 ■児童数/254人 ■教職員数/20人 ■周辺環境/水田 山林 (平成21年5月1日現在)



【児童が描いた有秋東小ビオトープのイメージ画】



【観察会での児童の真剣な表情】

ビオトープの概要

- 場所/学校敷地内
- 面積/890㎡
- 設置者/学校
- 設置した年/1994年
- 直近の改修年/2009年
- 主な管理者/児童・職員・わかなえ隊

【コンセプト】

ビオトープは、学校の校庭の東側のコーナーに設置してある。ビオトープ内にはメタセコイア、シラカシ、アオギリ、ケヤキ、ヒノキ、イチヨウといった樹木があり、その下には自然の植物群が自生している。今年、5月にカルガモがビオトープ内に営巣し、雛5羽をかえした。このように子供たちが普段あまり接することがない動植物に実際接することにより、自然に対して興味関心が持てるよう配慮してある。また、環境教育の教材として、豊かな体験活動ができるように木道を設置し、子供たちがいつでも活用できるように工夫を凝らした。



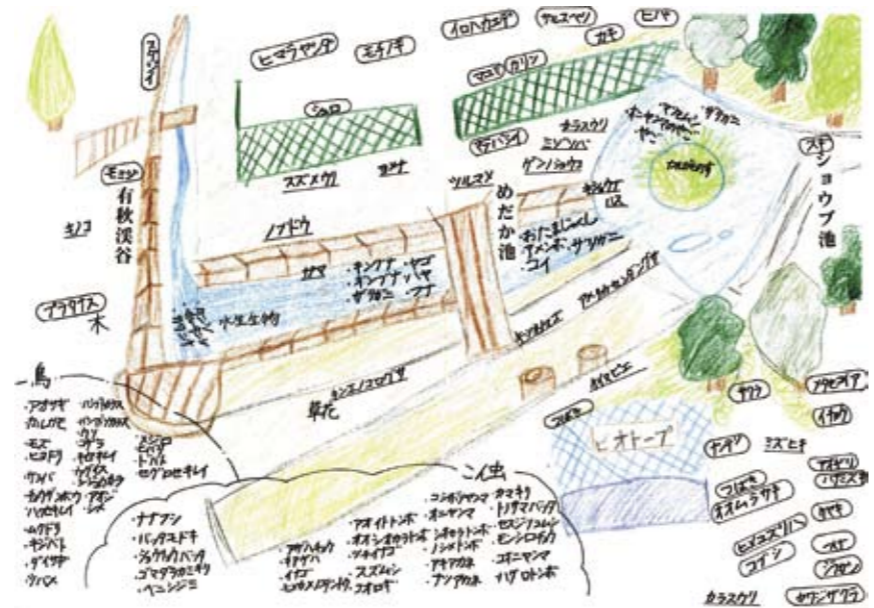
【今後生息・

生育させたい生物】

カワニナの数が増えており、昨年来からの計画としてホタルが飛び交うビオトープの実現を目指している。また、今年はビオトープ内にカルガモが営巣し、雛5羽を孵した。多くの動植物の営みが自然と行われるビオトープとしたい。



【生息している動植物とビオトープ概要図（児童作成）】



有秋東小ビオトープ

平成21年度になり、本校のビオトープの木道が延長され、子どもたちが水道から水の中をのぞき込み、生きものが泳いでいる様子を見たりしています。また、池の中にある小島には、カルガモが巣を作り、たまごを産み出したため観察しました。子どもたちも興味深い生き物を見たりしました。来年も本校のビオトープで観察が見られることを期待しています。

7月9日：たまごを観鳥がめがけています。観察は何か食べずに、3週間くらいはあつたの観察しました。

9月15日：雛が孵きました。

雛は、すでに歩き始めました。近くには子どもたちは雛を見て「わあー」と歓声をあげていました。その後、雛は親鳥を追い回して歩きました。

有秋東小学校の児童は、カルガモの親子や生きものの観察を見て、「生きてることに」「命の重み」を感じています。

児童の活動

ビオトープの水道から水の中をのぞき込んで生き物を探しています。水道からだと生き物の動いている様子が見られるので、子どもたちのお気に入りの場所です。

野外観察をする中で、様々な発見をし「驚き、感動、そうなんだ」等の感動体験を積み重ね、自然のすばらしさを感じながら育っています。また、観察で得ることも教育的に取組んでいます。

ホタルが成虫のプラチタスの羽に翼を折り離れがけました。写真は3週間くらいたった幼虫です。

水の中を泳ぐ生き物を見つけ、子どもたちは「わあー、すごい」と感動を覚えています。



【有秋東小 ビオトープ通信】

【ビオトープの生きものたち】

ビオトープの活用方法

- 児童・生徒

全校児童が環境学習の生きた教材として活用している。特に3年生、4年生が中心となって、ビオトープ内の動植物の調査及びビオトープに集まってくる生物調査も行っている。調査したことを更に詳しく調べ、全校児童や家庭・地域社会へと発信をしている。
- 地域住民

地域の方々もビオトープには興味関心を抱いておられ、休日に直接観察にこられたりしている。市原市主催の観察会が本校ビオトープで開催されることになり、そこに参加されている方もいる。

ビオトープの効果

- 児童への効果

環境学習の時間は勿論、休み時間も常時ビオトープに関わり、新たな水生昆虫を見つけたりと、昨年度より更にビオトープに関わる子供たちが増えている。動植物の名前や生態まで詳しく知っている子供たちも増えている。
- 教職員への効果

子供たちに教えるために、自ら動植物の収集や調査・記録をするなど、日々の積み重ねが続いている。
- 保護者・地域住民への効果

保護者アンケートから、多くの保護者の方々からビオトープがあることに誇りをもたれ、子供たちの教育に必要性を感じている。
- その他、期待される効果

市原市主催の自然観察会が昨年度に引き続き、本校ビオトープを会場に開催されるようになった。また、他市からもビオトープを観察してほしいとの依頼もある。

保護者、地域との連携

- 保護者

地域ボランティアグループの「わかなえ隊」主催の夏季キャンプが開催され、ビオトープを活用しての学習も行われ、保護者の方々も協力して下さった。

■自治会、町会

11月20日に本校で行われる環境学習の行事に参加協力を依頼する際に、ビオトープへ更に興味関心を持って頂くように、町会長のみなさんに集まっていただき、直接協力依頼をする。

■その他

自然密着型及び地域密着型のビオトープをめざし、保護者や地域の方々へ今まで以上に協力を呼びかける。

整備・活用・管理等の課題

ビオトープ整備や管理には、学校だけでは対応できない面も数多くある。保護者の方々や地域の方々、ボランティアグループの方々の協力が必要である。10月3日、4日の両日には保護者の方々の参加を得てビオトープの整備を行った。ビオトープを活用して自然観察会をこれまで年2回行ってきた。また、市原市主催の自然観察会も予定されている。学校では環境学習の教材として日々活用している。ビオトープの活用頻度も多くなることから、管理や整備は多くの方々に関わっていただけるようなシステムを作る予定である。

今後の展望

今年、日本生態系協会及び関東建設弘済会主催の「関東・水と緑のネットワーク拠点百選」に本校ビオトープが選定された。このことを多くの方々へアピールし、本校の子供たちは勿論のこと、市内の多くの方々へビオトープがもたらす教育効果を知らせていきたい。そして、学区内外の多くの方々からビオトープにかかわっていただきたい。また、より自然に近いビオトープとしてのあり方を学び、整備、活用、管理を充実させたい。

整備担当者(教員、児童、保護者等)から

整備に関しては、多くの人手を要することから、多くの参加者を望む。土曜日、日曜日と家庭の行事計画と重なったことから、年度当初にビオトープ再生委員会の方々を集まって計画立案をするとよかった。保護者の方々にはビオトープがもたらす教育効果を肯定しておられ、また誇りにもしておられる。このことは職員も同じである。更に、子供たちや保護者の方々、地域の方々からも愛着を持たれるビオトープとしたい。